

(5) 東海



東海地域では、景気は力強く回復している。

- ・ 鉱工業生産は堅調に増加している。
- ・ 個人消費は緩やかに回復している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

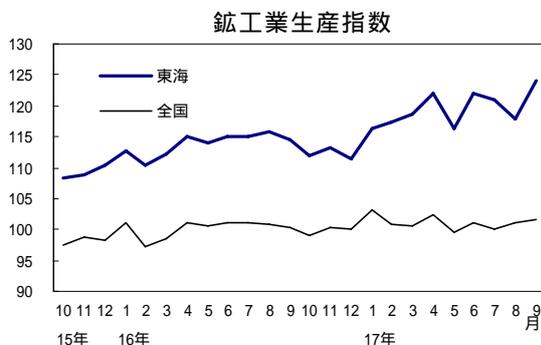
前回調査からの主要変更点

なし。

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は堅調に増加している。

輸送機械は、完成車の海外向けが北米向けを中心に高水準で推移したものの、国内向けが新車効果の一巡などから伸び悩み、減少に転じている。なお、自動車部品は高水準で推移している。一般機械は、金属工作機械が国内外の一般機械向け、自動車関連向けを中心に、高水準で推移したことなどから、おおむね横ばいとなっている。電気機械は、制御機器が自動車関連、半導体関連向けを中心に高水準で推移し、電動機が自動車関連向けを中心に好調に推移したことなどから、増加している。窯業・土石は、ファインセラミックスが自動車向けを中心に増加したものの、陶磁器がタイル・飲食器を中心に低調に推移したことなどからおおむね横ばいとなっている。化学は、自動車関連向けが高水準で推移したことなどから、四半期でみるとおおむね横ばいとなっている。電子部品・デバイス、半導体素子・集積回路が携帯音楽機器向けを中心に好調に推移したことなどから、増加している。



(備考) 1. 12年=100、季節調整値。
2. 平成17年9月の東海は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

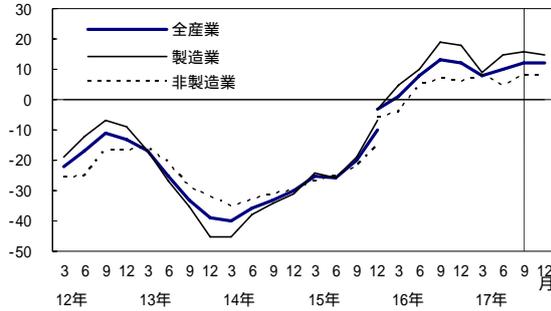
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
輸送機械	33.9	1.6	4.9	3.0	2.5
一般機械	11.3	4.0	0.3	0.4	3.9
電気機械	7.3	5.2	2.6	0.6	13.6
窯業・土石	6.1	0.6	0.2	1.6	1.7
化学	5.4	4.4	0.5	0.9	3.9
鉱工業	100.0	2.2	0.8	0.8	0.8

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 7~9月期は速報値。
3. 生産指数は東海、出荷、在庫指数は中部。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

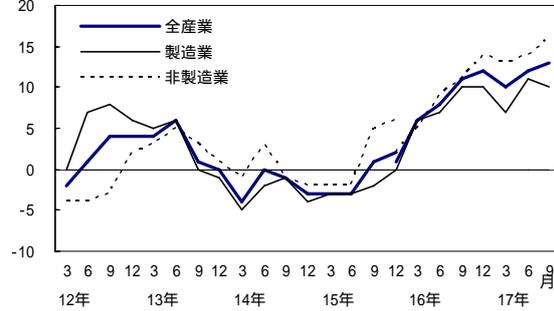
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



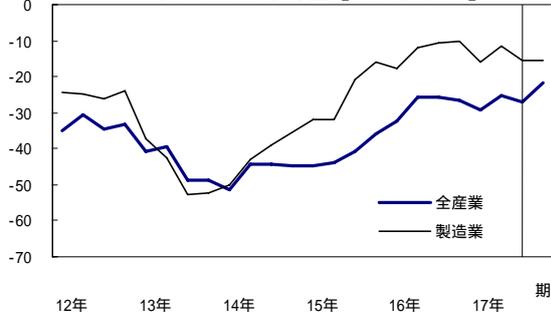
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。17年12月は予測。
15年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。17年 期は見通し。
中部地区。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

「出荷量は多いが、原料価格が高騰しており、価格転嫁を十分できていないため収益を圧迫している(化学工業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

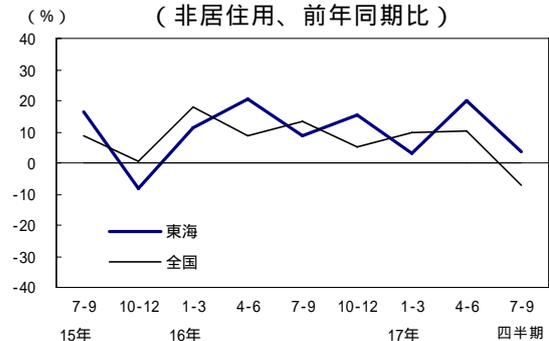
(3) 17年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	16年度実績	17年度計画
全産業	9.6	14.4 [13.2]
製造業	22.6	21.8 [20.1]
非製造業	2.8	5.3 [4.8]

(備考)[]は前回(6月)調査結果。

建築着工床面積
(非居住用、前年同期比)



2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに回復している。

大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、7月は、セール効果、クールビズ効果がみられたことから衣料品が前年を上回るとともに、愛知万博効果もみられたことから、全体でも前年を上回った。8月は、気温が高く、秋物衣料品が振るわなかったものの、引き続きクールビズ効果、万博効果がみられたことから、全体でも前年を上回った。9月は、中旬までの残暑で秋物衣料品が苦戦したものの、万博閉幕前の駆け込み需要から、関連商品土産や弁当需要がおう盛だったことなどから、全体でも6か月連続で前年を上回った。なお、名古屋市内主要5百貨店の10月の売上高は、前年同月比で1.1%増となっている。

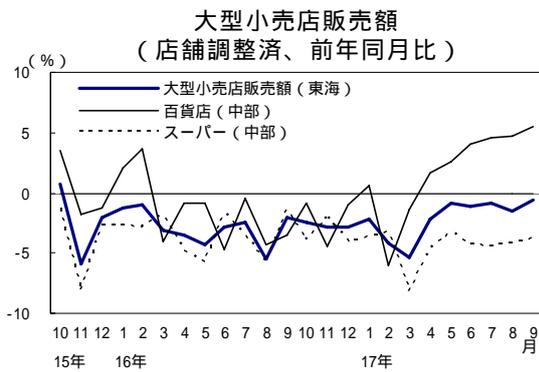
スーパーは、競合が激化するなか、期間を通じて衣料品・飲食料品ともに前年を下回り、全体でも期間を通じて前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

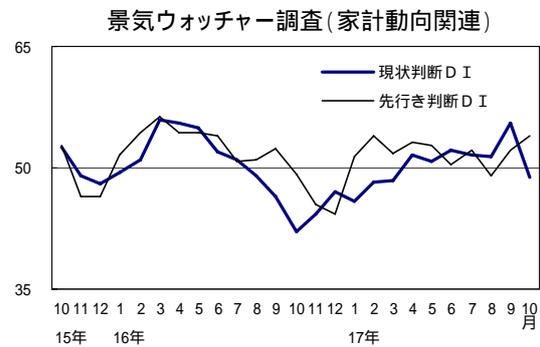
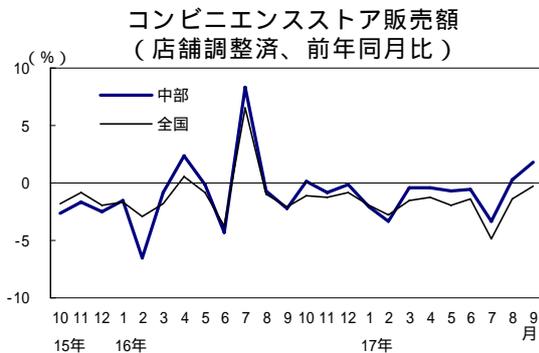
「最近ようやく寒くなってきたが、冬物の動きは昨年より悪い。液晶テレビなどでその分をカバーしている(家電量販店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(前年同期比、%)

	16年10-12月	17年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	2.7	3.8	1.3	1.0
百貨店	2.0	2.0	2.8	4.9
スーパー	3.4	4.9	4.0	4.2
コンビニ	0.3	1.9	0.5	0.5
景気ウォッチャー	44.5	47.5	51.4	52.8



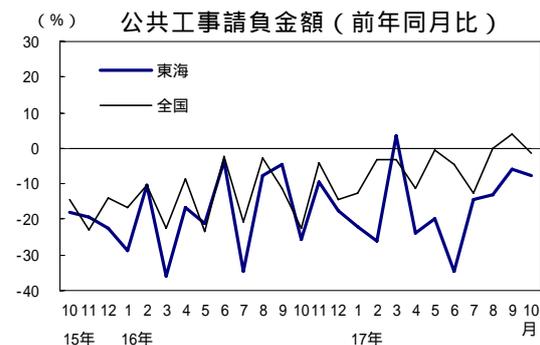
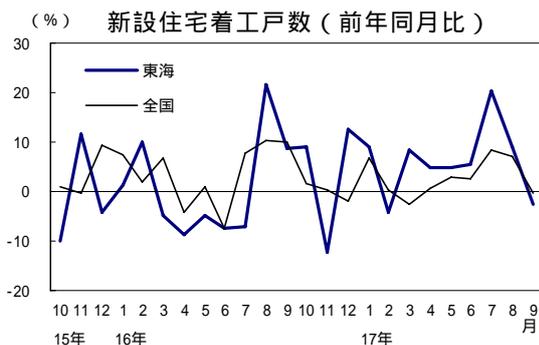
(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。
百貨店、スーパー、コンビニは中部地区。
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は増加している。

持家が前年を下回ったものの、貸家、分譲が上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は17年度累計で見ると前年度を下回っている。

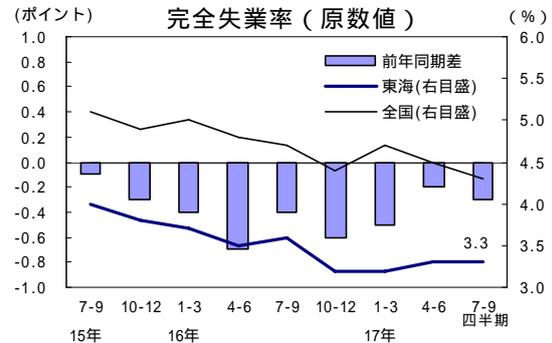
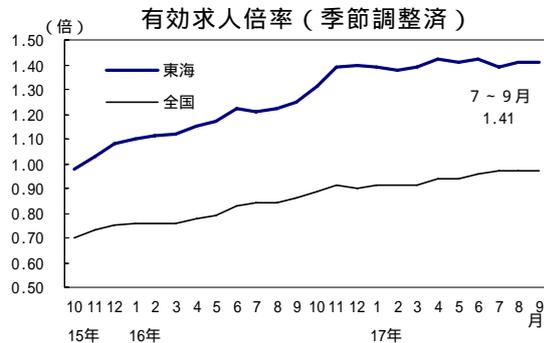


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査（10月）[雇用関連（現状）]

「地元大手自動車メーカーなど自動車関連の求人は依然好調で、パート、アルバイトや建設請負などの落ち込みをカバーし、求人全体では前年度を上回っている（新聞社〔求人広告〕）」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

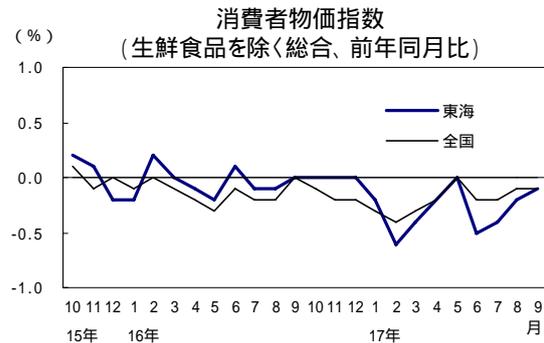
(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。

10月に負債総額が大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	16年10-12月	17年1-3月	4-6月	7-9月	17年10月
倒産件数	325	333	344	301	112
(前年比)	3.3	0.9	21.6	3.8	10.9
負債総額	3,141	2,480	1,656	1,308	442
(前年比)	23.9	77.1	88.4	22.4	112.7



景気ウォッチャー調査（10月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・愛知万博閉幕後も、宿泊、レストラン、宴会ともに、客単価は予想ほど落ちていない（都市型ホテル）

<先行き>

・12月以降の予約数も前年を上回っており、期待が持てる。近隣のゴルフ場も同様な動きであると聞いている（ゴルフ場）

景気ウォッチャー調査（合計）

